

# 名誉院長室の窓から

いしかわ きよし



## 略歴

昭和23年生（本部町出身）

昭和42年県立名護高等学校卒

昭和49年岡山大学医学部卒

昭和52年琉球大学保健学部勤務

昭和55年国立療養所沖縄病院勤務

平成6年同・副院長

平成13年同・院長

平成26年定年退職・名誉院長

## ご挨拶

まさしく「光陰矢のごとし」でした。平成26年3月31日をもって国立病院機構沖縄病院での副院長・院長生活の合計20年の生活に終止符を打ちました。支えてくださいました皆様方に心より感謝を申し上げます。一言では表現できない多くの出会いに、感謝の意を表現するために「名誉院長室」の窓を開いておきます。全く施錠はしておりませんので、出入りは自由です。

昭和43年4月、岡山大学医学部入学、時を同じくして大学紛争の嵐に遭遇。否応なしに政治・経済・文学等の医学の領域外の世界に興味を刺激されました。劣等生を絵にかいたような大学生活、6か月間の卒業延期の処分の後、良き学友に後押しされ無事卒業、昭和49年12月、医師としての第一歩を踏み出しました。

卒業と同時に、岡山大学医学部第一外科に入局しました。先輩の誘いもあったのですが、医局の雰囲気、少々野蛮な男の集団、徒弟制度には何らの抵抗もなく馴染んでしまいました。

学生時代の不勉強を取り戻すために、学会発表、小論文としての症例報告を数多くこなすことを決意し実行しました。結果として、多くの患者さんとそのご家族との出会いがあり、思い出の診療風景として記憶にとどまっております。

2010年に出版した拙著「医者目で見えた患者学」（沖縄タイムス出版）以降の文章を掲載いたします。ご笑読ください。